

2020年 年頭所感 アキュラホーム社長 宮沢俊哉

株式会社アキュラホーム（本社：東京都新宿区 代表取締役社長：宮沢俊哉）では、2020年1月6日（月）に年頭式を行いました。ここに、当社代表取締役社長宮沢俊哉の年頭所感を紹介いたします。

新年あけましておめでとうございます。2020年の年頭にあたり、ご挨拶を申し上げます。昨年は、アキュラホーム創業40周年・ジャープネット設立25周年・令和元年という3つの節目を記念し、新時代の先進住宅「ミライの家・Rei」の発表や、ジャープネットの上位組織「スマートアライアンスビルダーメンバー（以下、SABM）」の始動、「カンナ削りの木のストロー」を筆頭とした環境貢献企業としての活動などを主に行いました。また、会社の基盤となる制度やシステムの改革に着手するなど、アキュラホームグループが永続的に発展する基盤も強化し、これらのさまざまな事業や取り組みが実を結んだ年となりました。この充実の一年を一言で表すなら、「革新」「改革」の年。今一度原点に立ち返り、われわれのあり方を見直して変えていくということを広く推し進めることができました。

この10年あまり、人口や世帯数の減少を受けて住宅市場は縮小傾向にあります。一方で住まいづくりに求められる技術は年々高度化しています。そのような時代に求められるのは、資本金や営業力だけでなく、つくり手としての思いも持った技術力のある企業であると考えます。強みを持った人や企業が連携し、謙虚に学び合い、多様なニーズに応えられる理想のつくり手へと共に進化していくことが、住まい手に求められる時代になると思っています。

そして、2020年は、昨年に基盤を固めた連携や制度改革を大きく加速させる年だと考えます。「賢い連携」のさらなる推進として、SABMをはじめ、グループの内外で成果が出るノウハウへの出資、ノウハウを共有する場の提供を積極的に行っていきます。こうして手を取り合いながら、日本の住まいづくり・まちづくりをリードするホームビルダーへと進化を続け、ジャープネットのミッションでもある「世界に誇れる住環境づくり」の実現に近づいていくことを願っています。

また、環境貢献活動として「カンナ削りの木のストロー」もさらに広めていきたいです。まずは、2020年に海外から日本へ来訪される方々に「木のストロー」を使っただけで、海外へ普及させるきっかけをつくりたいと考えています。やがて世界各地で「木のストロー」が地産地消され、各地の環境問題や雇用問題の解消につながっていけば嬉しい限りです。

この新しい年が皆様にとって素晴らしい一年となりますことを祈念して、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。